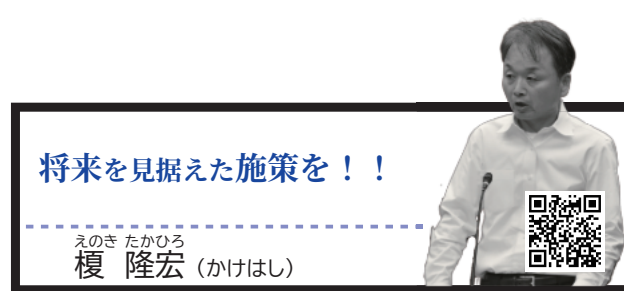


今こそ成羽病院を魅力的に 医療体制について

- Q** 妊婦健診を受けるため市外へ通院している方々の現状を、市はどのように受け止めているのか。
- A** 市内で妊婦健診が再開できる環境づくりは喫緊の課題であり、早急な対応が必要と認識している。
- Q** 成羽病院の魅力化として、更年期障害に対する保険適用となるプラセンタ療法の皮下注射を取り入れてみてはどうか。
- A** 実施の有無は明言できないが、患者のニーズを把握し、需要を見極めていくことが大切だと考えている。

有漢学園における児童・生徒への 支援体制について

- Q** 先生方が子どもたちと向き合う時間の確保は、学校現場の努力だけでは限界があるのでは。教育委員会としてどのような支援を行っているのか。
- A** 公務のDX化や教師業務アシスタント、養護教諭の複数配置は効果があると考えている。限られた人員の中ではあるが、現在の支援体制を維持しながら取り組んでいきたい。
- Q** 毎日安心して通えることが、結果として選ばれる学校につながると考えるがどうか。
- A** 安心して通え、自分らしく過ごせる学校であり続けられることが大切である。一人ひとりの子どもにとって、楽しくわくわくする空間が一番である。支援を充実させていく。



将来を見据えた施策を！！

えのき たかひろ
榎 隆宏（かけはし）

観光施策について

- Q** 観光協会への市職員派遣をどう評価しているのか。観光振興計画を策定しないのか。
- A** 派遣は平成27年度から続き、観光協会の統合支援や人材育成等で一定の成果があった。今後は協会の自主性を高めつつ、派遣のあり方を検討したい。観光の方針は総合計画で示している。森の芸術祭に市民一丸で取り組み、成功させることが今後の観光の実行計画につながるものと考えている。

水道事業の職員体制について

- Q** 成羽地域局に水道担当を集約した「西拠点」をどう評価するのか。技術職員の確保・育成が急務ではないのか。
- A** 若手への技術継承や効率化を目的に集約した。相談・協力がしやすくなり、一定の成果がある一方、事務処理や通信環境に課題も残っている。技術職員の採用は難しいが、研修を実施することや、若手とベテランがペアを組むことで技術継承を進めたい。

高校の魅力化について

- Q** 「高校魅力化推進プロジェクトチーム」の成果は何か。今後どう取り組むのか。
- A** 高校の取り組みに加えて、市役所の8部署が連携した全庁横断型支援により、現時点において県立2校の存続を実現した。この取り組みは全国から注目され、国や他自治体の視察が来ている。今後は産官学等の連携による「高校魅力化コンソーシアム」を構築し、魅力化を進める体制を整えたい。



学校給食の適温提供へ 保温対策を強化

かわかみ まさみ
川上 雅美

学校給食について

- Q** 学校給食の民間委託後の現状について問う。
- A** センターの職員と事業者での日常の書面での協議、毎日のミーティングも実施しており、給食の品質、衛生面は維持できていると考えている。2か月経った現在、円滑な業務運営ができています。
- Q** この度、川上学校給食センターが統合され、今まで配食を受けていた学校の保護者から「給食が冷めている」との指摘があるが、給食センター統合後の温度管理をどのようにしているのか。
- A** 指摘の内容については、給食センターでも把握している。昨年度まで川上学校給食センターが配食をしていた学校の一部の保護者から汁物が少しぬるいのではないかとという指摘があった。また検食をしている学校からも、もう少し温かければというようなコメントがあった。
- Q** 食缶の保温カバーをかけるなどの検討はできないか。あるいは他に市として、今すぐにできる対策として何か検討しているのか。
- A** 汁物などを配缶するとき、現在は常温の食缶に配缶をしているが、温度低下を緩やかにするために使用の直前に食缶を一度温めて入れることにより、効果が出るのではないかとすることを今検討している。また、保温カバー等も研究をしたいと思っている。年度の後半には気温の低い時期が来るので、それまでに追加の対策をしていき、少しでも改善を図っていきたい。



配送車への給食コンテナの積み込み



消防・救急体制の充実を

まつおか たかお
松岡 隆雄

西分駐所 消防・救急体制の強化

- Q** 市の西部地域で豪雨災害などにより火災・救急・救助事案が同時多発した場合、現在の体制で対応可能なのか。その根拠を併せて示してほしい。
- A** 西分駐所は現在3名体制で運用しているが、高機能指令システムによる車両運用、消防団との情報共有、広域応援体制、#7119やドクターヘリの活用により、消防本部全体として必要な消防・救急体制は確保している。

有漢・中井地域における消防・救急体制の強化

- Q** 有漢・中井地域の消防力強化について、市は今後どのように考えているのか。
- A** 機能別団員制度の活用による消防団員の確保や広域応援体制の強化を進めるとともに、消防署、消防団、地域住民との連携を深めていく。

地域救急支援体制の構築

- Q** 地域救急支援員制度、住民救命講習の拡充、消防団員への応急手当普及員資格取得支援、地域搬送協力員制度などについて、今後具体的に研究・検討していく考えはあるのか。
- A** 現在、消防団員への応急手当や普及員制度は導入している。普通救命講習などの充実を図るとともに、地域救急支援制度については他の自治体の取り組みを参考に研究していく。
- R** 災害時に地域住民の命を守るためには、消防力の充実に加え、地域住民が支え合う体制づくりが重要であるとする。今後も周辺地域の消防・救急体制の強化を求める。